

クラブフォーラム 「ローターアクトについて」



お知らせ

長い間例会のお世話をいただきました、クレストンホテル営業の山口さんが退社されることになりました。新入会員の金子さんよりお礼の花束を贈呈致しました。



ロータリー・一口メモ (ROTARY JAPAN WEB より抜粋)

●米山奨学金とは

日本で学ぶ外国人留学生を支援する、日本の全ロータリークラブによる「多地区合同奉仕活動」です。これまでに支援した奨学生は 109 か国 1 万 3,902 人にのぼり、日本の民間奨学財団では最大規模です。

“日本ロータリーの父”米山梅吉氏(1868-1946)の没後、彼の功績を偲ぶために何か有益な事業を、という声がかつロータリアンから上がりました。

「世界に“平和日本”を理解してもらうためには、まずアジア諸国の理解を得なければならない。アジアから一人でも多くの留学生を迎え入れ、平和を求める日本人と出会い、互いに信頼関係を築くことこそが、日本のロータリーに最もふさわしい国際奉仕事業ではないか。こうして東京RCで始められた「米山基金」が、全国ロータリークラブの合同事業として広がり、1967年7月、文部省(現文部科学省)から財団法人の許可を得るに至りました。2007年度は、財団設立40周年を迎える記念すべき年です。

米山奨学事業の特長は、世話クラブ・カウンセラー制度によって、奨学生一人ひとりが日本での留学生活にお

いて精神的な支えを得、かつロータリー活動に密着することができる点にあります。ロータリーが求める平和の精神を胸に刻んで巣立った元米山奨学生には、韓国駐日大使やスリランカ警察庁長官、ネパールの女性職業訓練センター所長のほか、韓国・台湾でガバナーを務めた人もいます。元奨学生を中心に組織される米山学友会は海外を含めて27あり、災害時のボランティア活動やシンポジウムの開催など、社会に貢献する活躍をしています。

●職業を通じた活動

「職業奉仕」という言葉は耳慣れないと思いますが、ロータリアンたちが一番大切にしていること、それが「職業奉仕」です。

ロータリークラブは、企業経営者、専門職といった職業人の集まりです。会員は、それぞれの職業を代表してクラブに入会します。したがって、会員候補者は、その時点で既にその職業において高い見識と業績を積み上げてきていますが、そういった人々が集まって切磋琢磨し、さらに職業倫理の向上に努める、というのが、ロータリーにおける職業奉仕の基本です。

また、自らの企業や専門職に関する知識や技術の向上と発展、顧客満足、従業員やその家族に対する責任、社会に対する責任など、例会をはじめとするさまざまな会合ならびに奉仕活動を通して互いに学び合い、自らの職業において実践すること、これも職業奉仕です。

「四つのテスト」は、ハーバート・テラーというアメリカのロータリアンが、ある企業の再建を引き受けたときに考えた企業の倫理的指針です。彼は、これによって見事にその企業の再建を果たしました。それ以来、ロータリアンたちに職業倫理の指針として広く愛用されています。

さらに、職業奉仕には、自らの職業や職業における専門知識を通して、地域社会や国際社会に貢献するという考えも含まれています。

●ロータリーと活動する若い人々

ロータリーでは、若い人々の活動を支援しています。また、それらの若い人々は、さまざまな形で、社会に貢献する活動をしています。

「インターアクト」

ロータリークラブが支援し、12歳から18歳が所属している奉仕組織です。

現在、世界で120以上の国と地域に1万2,000以上のクラブがあります。日本では、高校のクラブとして活動している場合が多く、地域社会の中でさまざまな活動をしています。

海外の人たちへの支援もしています

「ローターアクト」

ロータリークラブが支援し、18歳から30歳が所属している奉仕組織です。現在、160以上の国と地域に8,000以上のクラブがあります。大学のクラブ活動として、または、同じ地域に住んだり勤務している人たちが集まって、さまざまな活動を展開しています。